弊社ＳＲＩ業務に関して、新聞紙上において以下のように紹介されております。

２００８年３月６日（木）日経産業新聞　５面

ＳＲＩファンドに投資する

組み入れ企業の評価点検

食品偽装や株価操作などの不正が頻発する中で、社会的責任への取り組みが積極的な企業に投資するいわゆるＳＲＩファンドが残高を増やしている。　組み入れる企業は法令順守の徹底、環境への配慮、人権の擁護などを基準に選ぶが、運用利回りも重要だ。ファンド評価会社のモーニングスター社が公表する、企業の社会的責任（ＣＳＲ）の評価が高い国内百五十社を構成銘柄とするＭＳ－ＳＲＩ指数をみると、この十年の運用利回りは東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）を上回っている。　ファンドの個別の内容は、それぞれのサイトでわかる。例えば「損保ジャパン・グリーン・オープン」（損保ジャパン・アセットマネジメント）は、環境対策に積極的で株価が割安な企業に投資するという方針。週次や月次の運用リポートには、どの銘柄を何％程度組み入れているかや、投資対象企業の動向などが記載されている。　「住信ＳＲＩ・ジャパン・オープン」（住信アセットマネジメント）のサイトでは「環境的責任」だけでなく、「法的責任」「社会的責任」「経済的責任」を含む四つの観点から企業を評価し、中長期的に株価の上昇が見込める銘柄に投資する方針を明示。「月報」で組み入れ企業名や選択理由などが確認できる。　野村アセットマネジメントの「ワールド・ウォーター・ファンド」は国内企業だけでなく世界の水関連および空気関連企業に投資するファンド。組み込んだ海外企業もサイトの月次リポートで紹介されている。　一般のファンドは販売会社、運用会社、信託銀行の三社で運営・管理するが、ＳＲＩファンドではＣＳＲについて企業を調査・分析する機関が欠かせない。　その一つであるインテグレックスは、上場企業全社を対象に「企業の誠実さ・透明性（倫理性・社会性）調査」を実施し、運用会社にデータを提供。サイトで調査に基づいたＳＲＩファンドを紹介している。特定非営利活動法人パブリックリソースセンターは市民の視点を反映した企業評価をし、複数のファンドの組成に参画している。評価の仕組みや調査結果などはサイトで見られる。